### sftp

SFTPサーバー上のファイルシステムを探索したり、クエリ結果をファイルとして転送することができます。

#### 構文

ファイル一覧の参照

sftp PROFILE ls PATH

ファイル内容の読み込み

sftp PROFILE cat [encoding=CHARSET] [limit=INT] [offset=INT] PATH

特定レコードのフィールド値をテキスト、CSV、TSV、JSON形式でファイル転送

sftp PROFILE put [append=t]|[overwrite=t] [encoding=CHARSET] [fields=FIELD\_1[,FIELD\_2,...]] [format={csv|json|text|tsv}] [multisession=t maxsession=INT] [partition=t] PATH

**PROFILE**

SFTP接続に使用する接続プロファイルを指定します。

接続プロファイルはWebコンソールで構成できます。ENT-3.10.2009.0、SNR-3.1.2008.0配布バージョン以降、SSHプロファイルは接続プロファイルに統合されました。\* (ENT, STD) システム設定 > 接続プロファイル\* (SNR) システム > 接続プロファイル

**{cat|ls|put}**

sftpセッションで実行するコマンドを指定します。

* cat: サーバー上のPATHで指定したファイル内容を読み込み、lineフィールドに出力します。
* ls: サーバー上のPATHで指定したパスのファイル一覧を表示します。
* put: 入力として受け取ったレコードやfieldsオプションで指定したフィールド値をSFTPサーバーにファイルとして転送します。ファイルはPATHで指定したパスに作成されます。
* テキスト形式の場合、フィールドが複数あるときはタブ区切り、空フィールドは「-」で表示
* CSV形式の場合、1行目はフィールド名リスト、空フィールドは空文字列で表示

**append=BOOL**

SFTPサーバーにデータを転送する際に使用できるオプションで、PATHで指定したファイルが存在する場合はファイル末尾に追記します。overwriteオプションと同時には使用できません。

**encoding=CHARSET**

ファイルエンコーディング（デフォルト: utf-8）。下記ドキュメントに登録されたPreferred MIME NameまたはAliasesを使用します: https://www.iana.org/assignments/character-sets/character-sets.xhtml

**fields=FIELD[,FIELD,...]**

SFTPサーバーにデータを転送する際に使用できるオプションで、転送対象のフィールドを指定します。複数フィールドを選択する場合はカンマ（,）で区切ります。

* テキストまたはCSVファイルとして転送する場合、このオプションを省略するとlineフィールドが出力されます。
* JSONファイルとして転送する場合、このオプションを省略すると全フィールドが出力されます。

append=tオプションを使用する場合、データの一貫性を保つため、fieldsオプションのリスト順序を常に同じにしてください。

**format={csv|json|text|tsv}**

転送するファイル形式を指定します。

**limit=INT**

SFTPサーバーからファイルを読み込む際に出力する行数を指定します。デフォルトは無制限です。

**multisession=t**

マルチセッションを使用するかどうかをブール値で指定します。指定しない場合は使用しません。追加セッションの確立に時間がかかるため、使用しない場合よりパフォーマンスが低下することがあるため、テスト後に使用可否を判断してください。

**maxsession=INT**

マルチセッションを使用する場合、最大で開くセッション数を指定します。マルチセッションを有効にせずこのオプションを指定するとクエリは失敗します。どれだけ大きな値を指定しても、接続先のsshd\_configで設定されたMaxSessions数までしかセッションは開きません。

**offset=INT**

SFTPサーバーからファイルを読み込む際にスキップする行数を指定します。デフォルトは0です。

**overwrite=BOOL**

SFTPサーバーにデータを転送する際に使用できるオプションで、PATHで指定したファイルが存在する場合はファイルを無視して上書きします。appendオプションと同時には使用できません。

**partition=BOOL**

tに設定するとマクロを利用してディレクトリパスを指定できます。マクロを利用するとディレクトリやファイル名を時刻に応じて変更できます。

**PATH**

ディレクトリまたはファイルの絶対パスを指定します。転送時はディレクトリパスではなく単一ファイルパスを指定してください。ファイル参照時、ファイルパスにワイルドカード（\*）を使用すると、特定文字列パターンを含む全ファイルを一度に参照できます。

#### 説明

partitionオプションをtに設定すると、マクロを利用して時刻に応じてディレクトリおよびファイルパスを変更するようにパスを指定できます。partitionオプションを指定し、パスにマクロを使用しない場合、クエリは失敗します。

利用可能なマクロは{logtime:FMT}と{now:FMT}です。

* {logtime:FMT}: ログ発生時刻を基準にディレクトリやファイル名を付与
* {now:FMT}: 現在時刻を基準にディレクトリやファイル名を付与

マクロは中括弧（{ }）で囲んで入力します。入力例は使用例6を参照してください。

#### 使用例

srvプロファイルでSSH接続し、リモートディレクトリのファイル一覧を参照

sftp srv ls /

参照結果の各フィールドの意味は以下の通りです：

* type（文字列）：ディレクトリの場合はdir、ファイルの場合はfile
* is\_link（ブール値）：シンボリックリンクかどうか
* name（文字列）：ファイル名
* file\_size（整数）：ファイルサイズ、ディレクトリの場合は0
* modified\_at（日付）：最終更新日時
* uid（整数）：所有者ID
* gid（整数）：所有グループID
* perms（文字列）：ファイル権限情報

srvプロファイルで接続し、/logpresso.shファイルの先頭5行を参照

sftp srv cat limit=5 /logpresso.sh

JMXクラスローディングログのうちUnloadedClassCountとLoadedClassCountのみを/tmp/class.txtファイルに出力

table classloading | sftp srv put fields=UnloadedClassCount,LoadedClassCount /tmp/class.txt

JMXクラスローディングログを/tmp/class.jsonファイルとして出力

table classloading | sftp srv put format=json /tmp/class.json

JMXクラスローディングログのうちLoadedClassCount、UnloadedClassCount、TotalLoadedClassCount項目を/tmp/class.csvファイルとして出力

table classloading | sftp srv put format=csv fields=LoadedClassCount,UnloadedClassCount,TotalLoadedClassCount /tmp/class.csv

ディレクトリをログ時刻基準の年月日、ファイル名を現在時刻基準の時分とし、JMXクラスローディングログのLoadedClassCount、UnloadedClassCount、TotalLoadedClassCount項目をJSONファイルとして出力

table classloading | sftp srv put format=json partition=t fields=LoadedClassCount,UnloadedClassCount,TotalLoadedClassCount {logtime:/yyyy/MM/dd/}{now:HHmm}.txt